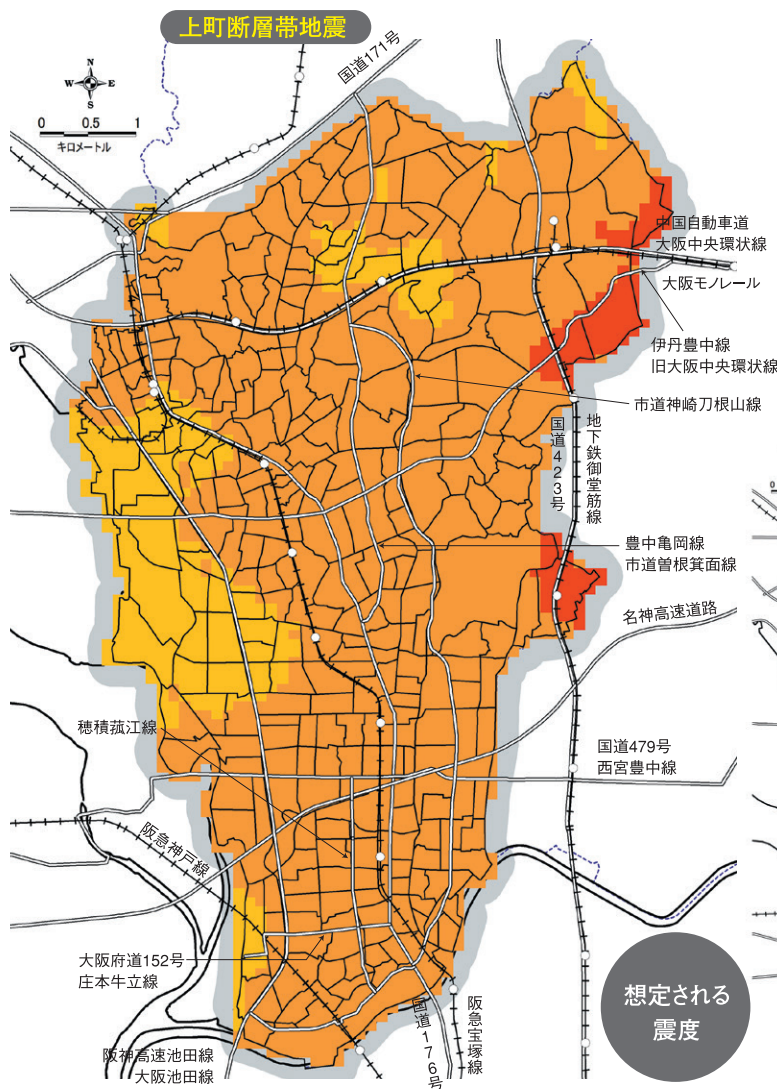


地震の大きさ、揺れの強さ（マグニチュードと震度）

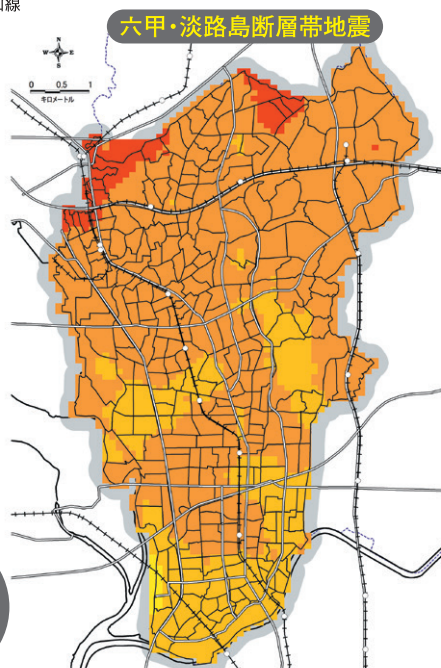
- 地震の大きさと揺れの強さは、「マグニチュード」と「震度」で表されます。
- 「マグニチュード」(M)は、地震そのものの規模(エネルギーの大きさ)を表します。マグニチュードが1大きくなれば、エネルギー量は約30倍大きくなります(M8地震はM7地震の約30倍の大きさ)。
- 「震度」は気象庁が定義したもので、それぞれの場所における揺れの強さと被害の程度を表します。現在、テレビなどに速報される震度は、地震計の観測値から算出された震度です。

震度 (計測震度)	揺れの状況	屋内	屋外	過去の地震
7 (6.5以上)	<ul style="list-style-type: none"> ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。 			北海道胆振東部地震 平成30年(2018年) 熊本地震 平成28年(2016) 東北地方太平洋沖地震 平成23年(2011) 新潟県中越地震 平成16年(2004) 兵庫県南部地震 平成7年(1995)
6強 (6.0以上6.5未満)	<ul style="list-style-type: none"> ●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。 			岩手・宮城内陸地震 平成20年(2008) 新潟県中越沖地震 平成19年(2007) 能登半島地震 平成19年(2007) 鳥取県西部地震 平成12年(2000)
6弱 (5.5以上6.0未満)	<ul style="list-style-type: none"> ●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 			茨予地震 平成13年(2001) 福岡県西方沖地震 平成17年(2005)
5強 (5.0以上5.5未満)	<ul style="list-style-type: none"> ●物につかまらなると歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。 			大阪府北部地震 平成30年(2018年)
5弱 (4.5以上5.0未満)	<ul style="list-style-type: none"> ●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 			
4 (3.5以上4.5未満)	<ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。 			



直下型地震

- 豊中市域に大きな影響を及ぼす主な直下型地震として、上町断層帯地震、六甲・淡路島断層帯地震などがあります。
- 上町断層帯地震、六甲・淡路島断層帯地震とも、全域で震度6弱以上、一部地域で震度7の強い揺れが予想されます。
- 建物被害は、建物構造や地盤状況などによって被害の大きさが異なります。どの地域にも大きな被害を受ける危険性が潜んでいることに留意してください。

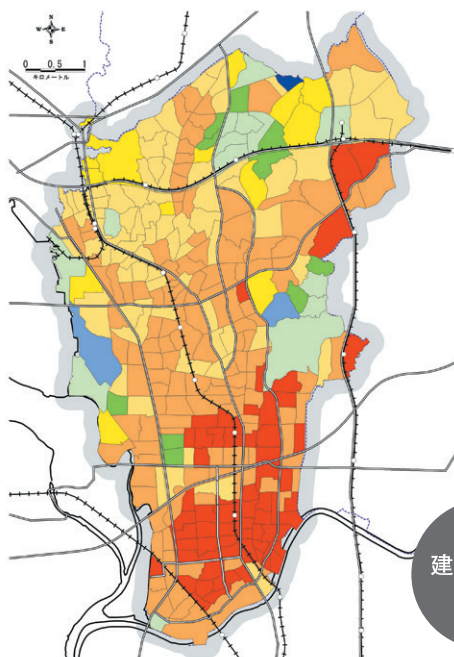


震度(計測震度)

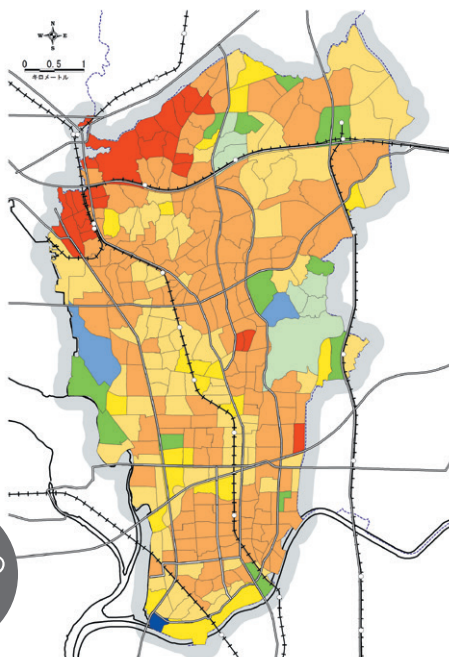
- 震度7 (6.5~)
- 震度6強 (6.0~)
- 震度6弱 (5.7~)
- 震度6弱 (5.5~)
- 震度5強 (5.3~)
- 震度5強 (5.0~)
- 震度5弱 (4.5~)

震度6弱と震度5強は、地域の震度をより詳細に理解していただくため、2段階に分けて表示しています。

※各断層による地震動は、市域全体への影響が大きいケースを対象としています。したがって、場所によっては更に影響の大きい揺れが発生する場合もあることに注意してください。



建物被害の危険性



被害率(%)

- 50 ~
- 30 ~
- 20 ~
- 15 ~
- 10 ~
- 5 ~
- 2 ~
- 0 ~

※ 被害率 = 全壊率 + (半壊率 / 2)